

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

経営理念

「人と地球の健康」への願いを実現する

売上高

515,000百万円

営業利益

58,000百万円

② 中長期の経営戦略

1. ヘルスケア領域

液体クロマト分析・質量分析システムにAIによる分析プロセス革新(AI)を追求。臨床検体検査ソリューションと画像診断のAI・IoT活用(IMX)を拡大。

3. マテリアル領域

計測製品ラインアップ強化、複合計測・解析の強化。走査電子顕微鏡でナノ領域の表面観察分野での付加価値提供を展開。

2. グリーン領域

カーボンニュートラル実現に向け水素エネルギー開発、GHG測定、PFAS分析手法の普及に注力。バイオものづくり事業でソリューション開発。

4. インダストリー領域

ターボ分子ポンプ体制強化、半導体・EV関連産業機械で「世界で評価されるソリューションプロバイダー」を目指す。航空機器は選択と集中で収益性改革。

③ 対処すべき課題

① 事業環境の不透明感

- ・円高および米国関税政策による影響が継続
- ・マクロ経済減速に伴う需要減少と関税コスト増加を想定
- ・価格転嫁やサプライチェーン見直しで影響軽減に対応

② 成長市場での事業拡大

- ・インド進出：統合会社設立と2027年稼働予定の工場建設
- ・北米ボストンラボで現地開発によるソリューション提供拡大
- ・中国蘇州工場での国産優遇策への対応力強化

③ 開発力と人材育成強化

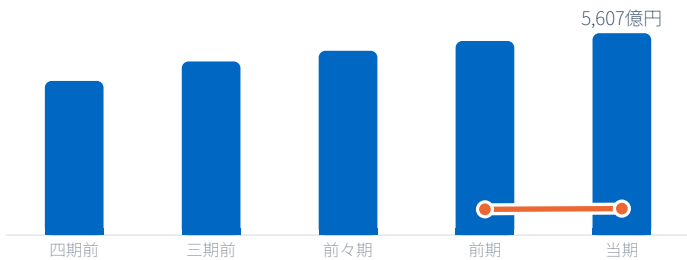
- ・アジャイル開発とコンカレント開発の導入拡大
- ・AIやDX活用に向けたデジタル人材育成
- ・次世代リーダー育成プログラムの拡充

面接で使えるポイント

- ・4つの社会価値創生領域（ヘルスケア・グリーン・マテリアル・インダストリー）で世界パートナーと共創し…
- ・分析プロセス革新(AI)や画像診断のAI・IoT活用(IMX)など、計測機器事業にDX/AIを組み込んだ事業展開。
- ・インド2027年稼働予定の工場建設、ボストンラボ開設など、成長市場での積極投資と現地開発体制の構築。

証券コード 7701

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
5,607億円営業利益率
13.1%財務健康度
78点 / 100点

将来性 曇り / 就活偏差値 68.1（当サイト算出の参考指標）

平均年収
924万円

精密機器内 9位/50社

平均年齢
43.9歳

精密機器内 19位/51社

平均勤続
18.5年

精密機器内 7位/51社

女性管理職
5.7%

精密機器内 29位/39社

男性育休
75.0%

精密機器内 27位/35社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: ISEKADOと共同開発したクラフトビール「香調」特別ラベル

